

ゆめみにゅーす



YUMEMI ZOO



季刊 VOL. 33
発行日 平成26年8月3日
発行責任者 夢見ヶ崎動物公園
問い合わせ 044-588-4030

飼育展示数 哺乳類:24種247点
鳥類:26種117点
爬虫類:9種70点
(平成26年7月末日現在)

～ペンギン換羽中～



▲少し毛羽立ってきたと思ったら…



▲羽根が抜け始めました。真ん中の個体はもう終わり、奥の個体はこれからです。

毎年7～8月頃、繁殖期のひと段落したフンボルトペンギンたちは年に1度の換羽をします。1年前に生えた古い羽毛が一斉に新しいものに生え換わります。そのため、換羽中はボロボロの姿となります。換羽の前には急に食欲が出てきて、よく食べ、よく太りだします。これは、換羽で多くのエネルギーを消費するので、体力をつけるため。また、野生下では、餌の魚を食べるためには海に潜らなくてはなりません。換羽中は羽の防水機能が落ち、皮膚に直接水がついて体温を奪われてしまうため、泳いで魚を獲りに行けなくなるためです。もっとも、動物園で生まれ育ったペンギンたちばかりなので、換羽中にもかかわらずプールに飛び込む者もいます。換羽中は体力を消耗し、元気のないことが多いです。口をあけて苦しそうにしている個体もいますが、ご心配なく。さらには、苦しさからイライラして怒りっぽくなる個体もいます…。個体差もありますが、2週間程度で換羽は終わります。その暁には、すっかりした白色部分のまぶしいペンギンたちに会えることでしょう。

秋の動物園まつりのお知らせ

秋の動物園まつりのお知らせです。

★日時：11月16日（日曜日）10時～15時

★動物リレーガイド、シマウマ餌やり体験、バックヤードツアーなど

詳しくはホームページ、市政だよりなどにも掲載予定です。



★ピックアップ動物★

テンジクネズミ

哺乳綱 齧歯目 テンジクネズミ科

南米に野生で数種類が生息しており、家畜化された種類がモルモットです。夢見ヶ崎動物公園のテンジクネズミもモルモットです。さまざまな毛色、毛並みの品種があります。

生まれた子どもには毛や歯がすでに生えており、母乳も飲みますが、すぐに草も食べることができます。前足の指は4本、後ろ足は3本です。オスとメスで、見た目には大きな違いはありませんが、オスの糞はバナナ型、メスの糞は俵型になることが多いです。

餌の時間、飼育担当が近づいてくると「きゅっ、きゅっ」という鳴き声の大合唱が起こり、診察などで抱き上げると「キー！」と叫ぶなど、鳴き声による感情表現が豊かです。



人間は盲腸がほとんど退化してしまっていますが、テンジクネズミやウサギなどは、おなかの中の大部分を盲腸が占め、ここで草の繊維を微生物により分解させ、その糞を食べることで必要な栄養を摂取しています。

また、サルやヒトと同じく、ビタミンCを自分で合成できない珍しい動物の一つです。

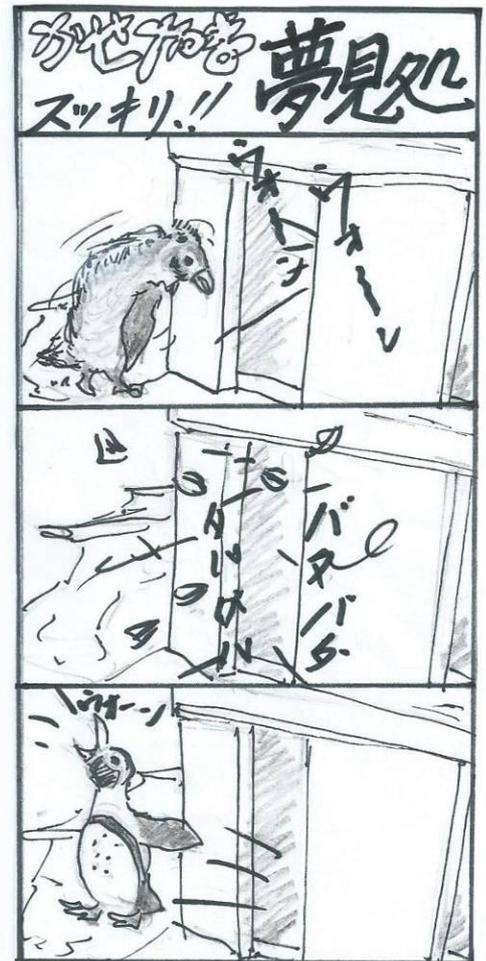
前回はシマウマの削蹄本番に入る前に、だいぶ神経をすり減らしてしまう話を書きました。

今年の6月、ミドリ削蹄を行ったのですが、まさに前回の記事通り、ミドリと一進一退の攻防戦が繰り広げられました。薬が入っていない餌は食べるのに、入っているものは見た目が同じなのに見抜くのです。本当にすごい勘というか、能力だと思います。今年ももしかしたらだめかも、とくじけそうになりましたが、最終的には餌を食べさせることに成功し、ミドリはうとうとし始めました。

薬が効き始めると、速やかにウマの周りに柵場を組み、大きな動きが取れないようにします。さらに、眠くなったウマが倒れてしまわないようにおなかの下に網をかけ、興奮を少しでも和らげるために目隠しをし、準備が整ったら、専用のかまややすりなどを用いて蹄を切っていきます。蹄はいわば「爪」なので、石のように硬いわけではなく、ゴムのように弾力があるので、刃物で切ることができるのです。この弾力が足を守っているため、蹄は大事なのです。削蹄が終了したらいつもより多めの敷きわらなどで、ふらつくウマのケアをします。

削蹄中、獣医は脈拍や呼吸のチェックを定期的に行い、終わったら外傷が無いか確認。翌朝以降、異常が無いか確認して、ようやくホッと肩の荷が下ります。

獣医の日記



★動物たちの主な移動(平成26年5月1日～平成26年7月31日)★

マーコール(♀2繁殖、♂1繁殖、♂1死亡)、ホンシュウジカ(性別不明3繁殖)、レッサーパンダ(♀1搬出)、オグロプレーリードッグ(♂1♀1死亡)、ホウシャガメ(♀1死亡)、ヒョウモンガメ(1死亡)